

## 平成26年度教育研究交流委員会 国際交流 ハリム大学医学部看護学科訪問と実習施設見学

教育研究交流委員会：金子典代、山口孝子、伊藤裕子、  
嵐田理佳、香月富士日、市川誠一

ハリム大学医学部看護学科と本学部学生間交流プログラムは3年目を迎えた。本年度は本学部生4名が9月2日から9月8日にかけて、春川市内のハリム大学にて講義や演習への参加、ハリム大学看護学科生との交流、春川市内の付属病院の見学、ソウル市内の付属病院の見学を行った。本学教員3名も同行し教員間研究交流を行った。また1月にはハリム大学の国際交流プログラム担当であるDong Soo Shin先生、HyunJung Kim先生を招聘し、セミナーの開催、付属病院の見学、留学生用宿舎の見学、来年度のハリム大学看護学科生の受け入れのプログラム調整、教員間の交流を行った。

### I ハリム大学医学部看護学科との国際交流の実績

平成24年に初めて本学学生4名がハリム大学を訪問し、平成25年度はハリム大学より4名の学生を本学に受け入れた。この実績をもとに今後、大学間で隔年に派遣と受け入れを継続的に行う予定である。平成26年度は本学学生の2回目のハリム大学への1週間の派遣を行った。また本年度は教育研究交流委員メンバー2名（金子典代、山口孝子）、学部の教員（伊藤裕子）もプログラムに参加した。

### II ハリム大学との国際交流の目標

#### 1) 学部生間の国際交流

名古屋市立大学看護学部、ハリム大学医学部看護学科相互の学生の短期留学を通じて、参加学生の国際的視野を広げ、海外の看護・保健・医療事情について見識を深め、異文化コミュニケーション能力を向上させることを目的としている。

#### 2) 教員間の国際交流

名古屋市立大学看護学部とハリム大学医学部看護学科教員間の研究、学術面での交流を通じて、異文化コミュニケーション能力の向上と大学間での国際交流の推進、共同研究の推進を目指す。

### III 本年度のハリム大学留学プログラムの

#### 1) 参加学生の選出、渡航までの準備

平成25年度末より学生に広報を行った。公開説明会を西棟にて7月に実施し、応募者を5月から6月にかけて募った。選出された学生に対して事前の説明会を複数回にわたり実施し、準備を行った。渡航安全講習会、現在

ハリム大学より名市大に留学に来ている学生とも国際交流センターにて交流を行った。また生協のサポートを受け、航空チケットの手配、宿泊先の選定を行った。現地宿泊費、保険は学生の自己負担であったが、渡航費については名古屋市立大学後援会より支援を受けた。渡航までの一連のスケジュールは表1のとおりである。

#### 2) ハリム大学でのプログラムの実際(表2)

中部国際空港に集合し、予定通り金浦空港に到着した。ハリム大学ボランティア学生の案内のもと春川市にバスで移動し、滞在先のホテルに到着した。2日目はオリエンテーション、講義への参加、3日目は講義の聴講と演習への参加、4日目は春川市ハリム大学付属春川聖心病院での見学実習を行った。看護部長および救急部看護師長の案内で、病院内の見学を行った。見学部署は、病棟およびICU、救急部門、手術室などであった。ソウル市内への移動、5日目はソウル市内ハリム大学実習関連施設のカンナム病院を訪問し、産婦人科、小児科病棟、ICUを見学を行い、5日間のプログラムを無事に終了した。9月1日～4日までは金子委員の同行があり、9月3日から6日までは山口委員、伊藤助教が同行した。

#### 3) 学生のプログラムによる学び、全体的な評価

参加学生全員が参加前に思っていた以上に学びが大きかったと評価していた。韓国の学生の英語のコミュニケーション能力の高さ、学生会の力の強さ、学生からの教員への積極的な質問する姿勢、1クラスの学生人数が日本よりも少ないこと、能動的に講義に臨む姿勢など多くの点で日本と韓国の違いを感じ取っていた。より詳細な学

表1 『平成26年度ハルリム大学国際交流』学生選考・準備スケジュール

実施項目	日時
・学生へのアナウンス（掲示） ・応募申込書配布	5月15日
応募申込締め切り	6月6日
面接日時の決定と学生への連絡	随時
3年生・4年生面接	6月3 - 4名の教員の参加のもと、実施
教育研究交流委員会にて派遣学生を決定	6月24日
学部教授会にて選考結果を報告	7月1日
・学生に派遣決定を通知 ・国際交流センターにも報告し、協力を依頼	7月2日
・ハルリム大学側と現地プログラム案について最終調整	7月 - 8月に実施
・学生への説明会(教育研究交流委員会主催)の実施、以後2週間に1回準備会を開催する	7月 - 8月に実施
・ハルリム大学側に選考学生について情報共有、プログラムスケジュールの共有を行う	7月25日
・生協と打ち合わせ開始	7/10以降、8月までに予約終了
・学生課による海外渡航安全確保の説明会の実施	8月7日
・ハルリム大学より名市大に留学に来ている学生との交流	8月7日、8月11日
・渡航の行程表・渡航先での連絡先一覧を完成させ、学生（保護者分）、教員で共有する。	8月18日
・ハルリム大学側へ連絡し最終調整	8月最終週
・最終説明会の実施	8月27日

表2 現地でのプログラム

	A M	P M
9/1 (Mon)		・ Kimpo Airport (13:10) ・ Check-in at the Sejong Hotel in Chuncheon
Volunteer		2 <sup>nd</sup> year student-Park, Seonyeong
9/2 (Tue)	・ Breakfast: school cafeteria ・ 10am: Meeting with Dean of Hallym Nursing school ・ Hallym university tour ・ Lunch: school cafeteria	・ 2pm: Nursing class (2 <sup>nd</sup> year nursing class: Basic Nursing Science, Pf. Kwak, Chanyeong), 7327 ・ Exchange with nursing students (2 <sup>nd</sup> and 3 <sup>rd</sup> year)
Volunteer	Park, Seonyeong	Park, Seonyeong
9/3 (Wed)	・ Breakfast: school cafeteria ・ 10am: Health service management class I (Healthcare risk management, Pf. Choi, Jaeyoung), Damheon13215 ・ 11am: Class II (Medical terminology and healthcare communication, Pf. Choi, Jaeyoung), Dasan10108 ・ Lunch: school cafeteria	・ 1pm: Nursing class (3 <sup>rd</sup> year nursing class: Adult Nursing II, Pf. Kim, Hyunjung), 7319 ・ Chuncheon tour
Volunteer	Park, Seonyeong	2 <sup>nd</sup> year student-Jeong, Seokbong
9/4 (Thu)	・ Breakfast: school cafeteria ・ 10am: Practice-Chuncheon Hallym Sacred Heart Hospital ・ Lunch: school cafeteria	・ To Seoul ・ Check-in at the Hotel Vision
Volunteer	Jeong, Seokbong	Jeong, Seokbong
9/5 (Fri)	・ Breakfast: near hotel ・ 10am: Practice-Kangnam Sacred Heart Hospital at Seoul ・ Lunch: hospital cafeteria	・ Seoul tour
Volunteer	Jeong, Seokbong	Jeong, Seokbong
9/6 (Sat)		
9/7 (Sun)	・ Free time in Seoul Departure	

びは資料2に記す。

プログラムの長さについても全員がちょうどよいとの回答であった。時期については、韓国ハルリム大学側は新学期第1週であったため、今回はもう少し遅めてほしいとの要望が寄せられた。

#### 4) 終了後の報告会の実施

平成26年11月5日に、参加学生4名による短期留学プログラムの報告会を行った。学部生12名、学術課国際交流担当職員、学部教員数名の参加があった。今後プログラムの参加を希望する学生から、費用面、安全面、準備に関する質問が寄せられた。

#### 5) ハルリム大学より教員の招聘、平成27年度の予定の調整

平成27年1月14日から16日にかけて、平成26年度の留学プログラムのコーディネーターであった HyunJung

Kim先生、Dong Soo Shin先生を招聘し、平成26年度の短期留学の振り返りを行った。平成27年度は6月にハルリム大学からの学生を受け入れる予定であり、学生が実習予定である名古屋市立大学医学部附属病院の小児科病棟とICUの見学、プログラムの検討、ハルリム大学学生が使用予定である名古屋市立大学留学生宿舎の見学を行った。

韓国における農村部の高齢者の食生活改善に関する介入研究について、韓国のICUにおける入室患者への栄養状態のアセスメント、栄養摂取の開始時期の評価に関する介入研究に関する講義を頂いた。特別研究セミナーには本学教員、大学院生、研究生総計12名程度の参加があった。また今後の共同研究のあり方について市大教員とハルリム大学の教員間で相互に情報交換を行いつつ、今後の両大学間での具体的な研究実施の準備作業を進めていくことを確認した。

#### 資料2 ハルリム大学付属春川聖心病院の概要

春川市は、韓国の北東部、江原道（カンウォンド）の道庁所在地で、人口約28万人、面積は約1,100㎢の都市である。ソウル市内より Intercity Train Express (ITX) にて約80分でアクセスできる。韓国ドラマ「冬のソナタ」の舞台となった、美しい湖畔の都市として知られレジャー産業などが発展している一方で、韓国国内でも高齢化率が高い都市である。韓国統計庁によると、韓国国内人口全体における65歳以上の高齢者が占める割合は2010年で11%<sup>1)</sup>となっている。

韓国では、2000年には人口全体における高齢化率が7%を突破し、急速に高齢化社会から高齢社会に達することが予測されている。高齢社会の急速な進行の背景には、人口構造の変化、特に合計特殊出生率推移の減少も指摘されている。1970年の合計特殊出生率が4.53であったのに対して、2013年の合計特殊出生率は1.19<sup>2)</sup>まで減少している。春川市は、韓国の中でも高齢社会が特に進んでいる地域と言われており、春川市の地域医療に奉仕し、三次医療機関の機能遂行、および国民の保健向上と健康増進のために、1984年12月10日、ハルリム大学付属春川聖心病院は設立された。

ハルリム大学付属春川聖心病院は、総可動病床数450床、病院職員総数は864名であり、2013年の患者診療統計は、年間入院患者数158,027名、1日平均350名、年間外来来院数310,593名、1日平均1,200名、病床稼働率80%、平均在院日数6.2日、死亡率2%である。

ハルリム大学付属春川聖心病院の4大戦略は、①診療水準の強化：地域社会で最高の診療水準、②診療クリニックの特性化、③地域社会に協力するネットワーク、④顧客満足をもたらす格調あるサービスを柱に地域医療に貢献することを目指している。特性化された診療クリニックについては、2005年に脊椎センター、心臓血管クリニックを開設し、現在は、消化器系癌患者診療、脳卒中センターを含め、最新の治療を提供している。地域社会の協力ネットワークについては、地域の医師会、患友会、奉仕会、公共保健施設との遠隔治療などの体系化を行い、顧客支援を実施している。

#### <参考引用文献>

- 1) Statistics Korea : 2014 Statistics on the aged.  
<http://kostat.go.kr/portal/english/news/1/23/1/index.board> (2014. 9. 30)
- 2) Korean Statistical Information Service.  
[http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT\\_1B8000F&vw\\_cd=MT\\_ETITLE&list\\_id=&scrId=&seqNo=&language=en&obj\\_var\\_id=&itm\\_id=&conn\\_path=A6&path=%252Feng%252F](http://kosis.kr/statHtml/statHtml.do?orgId=101&tblId=DT_1B8000F&vw_cd=MT_ETITLE&list_id=&scrId=&seqNo=&language=en&obj_var_id=&itm_id=&conn_path=A6&path=%252Feng%252F). (2014. 9. 30)

### 資料3 参加学生が学んだこと

#### 講義について（学生が気づいた点）

講義は少人数制で、席は決まっておらず学生の自由に好きな場所に座ることができる。学生は講義前にレジュメを受け取り予習してから講義に臨んでおり、積極的な討議が行われていた。すべて英語で行われる講義が複数あり、医療英語に関しては、韓国語の役を介さずに英語のみで行っている。日本よりも英語教育がはるかに浸透していることを感じ刺激となった。

#### 病院見学での気づき

韓国では、看護師は「信頼できる職業ランキング」2位になるなど、医師よりも信頼されており、その患者からの看護師への信頼感の高さを病院内でも随所に見ることができた。訪問先の病院では、日本のようにPHSではなく、スマートフォンを使用し院内の連絡や電子カルテを閲覧し、病室においては、入り口の名前は一部伏字で表記されるなど個人情報に配慮している。患者確認においては、日本と同様にリストバンドや名前を名乗ってもらい確認し、誤認を防いでいた。韓国での標準的なお産は2泊3日で、訪問先の病院では、少子化の為お産は1日～3日に1名程度であり、手術は1日に30回～40回行われている。全ての患者のベッドにはフェイススケールが備えられている。

#### 学生間交流から得たこと

学生交流では、ハルリム大学のボランティアの学生、ハルリム大学学生会のメンバーと英語でのコミュニケーションを楽しんだ。皆親切で献身的であり日韓の様々な文化の違いを知ることができた。学生用食堂、学生が利用するレストランを案内してもらい、現地の食文化もよく知ることができた。

#### 研修全体を通して

現地の人々は親切で、細やかな気遣があった。大学では英語で授業が行われ、多くのことを学んでおり、学生の意識が高くこれからの語学学習のモチベーションにつながった。病院では個人情報の扱いなど日本との感覚の違いに驚くと共に、他の視点を知ることができ、更に意識を深める機会となった。



◀▲ ハルリム大学附属春川聖心病院の外観およびエントランス

ハルリム大学付属春川聖心病院の看護部長と救命救急病棟看護師長



一般病棟ナースステーションと病室



ICU エントランスと ICU 待機ベッド



手術室エントランスと手術室看護師長



小児科外来



ICU エントランスとICU 待機ベッド



病棟スタッフ・教員とともに

3) ソウル市内カンナム病院見学



カンナム病院の外観とエントランス



小児科病棟



産婦人科看護師長より説明を受けている様子とICUベッド